

授業科目名	教職入門		
授業担当者名	清水 克博		
単位数	2単位	開講期（年次学期）	1年次前期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	233-1PED1-01
備考	児童発達教育専攻 実務経験のある教員担当科目		
授業のテーマ及び到達目標	学校教育の中で、教師に求められる役割が大きく変わろうとしており、これまで以上に、教師の資質・力量の向上が求められている。1年生の段階において、「教師」について検討することは、教職についての知識獲得・理解、自分自身の教師観の形成、教職への動機付けの向上のために、必要不可欠である。ここでは、教職の職務内容、現代の子ども及び学校の現状について基本的問題から理解し、教職の意義及び役割について理解するとともに、教職への関心や意欲を高め、今後の大学生活での学修目標を設定できるようにすることを目的とする。 最終的には、教師の専門性についての理解を基に、自分自身が実現しようとする教職観を明らかにし、将来の自分の教師像に向けてこれを具体化するための学修目標を設定できることを到達目標とする。		
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」◎、「思考力・判断力・創造力」○		
授業の概要	社会経済構造の変容に伴い、学校教育に期待される役割も大きく変容し、公教育の担い手である教師の役割や専門性は、さらに多様化、高度化しつつある。こうした中で教師の役割は知識伝達者から参加型学習のファシリテーターへの転換が迫られている。他方、人格形成の場としての学校に目を向けると、教師は児童生徒の心理的支援の役割も期待されており、この期待に応える上で、教師は同僚だけでなく、保護者や外部の専門家と協働してチーム学校として児童生徒を支援していく必要がある。本講義では、このような教育現場を取り巻く最新動向の紹介、教師の役割についての新たな展開の説明、チーム学校における教師の役割と意義について学修していく。その上で、大学生活を通じて教師としての自己のキャリアをデザインすることの意義や目的を理解するとともに、これまでの自分の足跡を振り返りつつ、これからありたい姿を描けるよう、他者との対話や多様な価値観に触れながら考えていく。 ＜実務経験と本科目との関連＞ 公立学校の教諭、教育センター指導主事としての教員研修の経験を活かし、職務内容や教師の役割について具体的な事例をあげ指導していき、これからの社会に求められる教師像を明確にする。		
学生に対する評価の方法	授業への取り組み・授業（15回）の振り返りシート（45%）、小レポート（15%）、期末レポート（40%） ※出席は、10回以上すること。		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法 等）	第01回 オリエンテーション 第02回 職人としての教師（1） -教師として学び成長すること、学びの共同体- 第03回 職人としての教師（2） -教師の身体性- 第04回 職人としての教師（3） -職人としての教師の性格- 第05回 専門家としての教師（1） -教師の専門職性とは- 第06回 専門家としての教師（2） -ベテラン教師の授業から学ぶもの、教師として学び続ける- 第07回 教師の役割 -児童生徒の心理的支援者、児童生徒理解、新しい時代における教師の役割と責務- 第08回 教師の職務内容（1） -学校経営と学級経営- 第09回 教師の職務内容（2） -生徒指導- 第10回 教師の職務内容（3） -多様な児童生徒の理解と支援、「気になる子」が溶け込む学級づくりの「基本ステップ」- 第11回 教師の職務内容（4） -いじめ・不登校対応、「学校安全」「安全教育」と教師- 第12回 これまでの自分のキャリアを振り返る 第13回 様々なキャリアを知る 第14回 自分の強みを知ることの大切さ 第15回 今後の大学における自己の学修計画、学生受講結果アンケートの実施		
使用教科書	テキスト 佐藤学「教師花伝書」(2009)小学館 参考書 山崎準二・矢野博之：編著（2020）「新・教職入門 改訂版」学文社 秋田喜代美・佐藤学：編著（2008）「新しい時代の教職入門」有斐閣 佐藤雅彰・齊藤英介：著（2015）「子どもと教室の事実から学ぶ『学びの共同体』の学校改革と省察」ぎょうせい 石井順治：著（1989）「『対話的学び』をつくる一聴き合い学び合う授業」ぎょうせい		
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	第1回 シラバスを読む、自分が出会った印象的な教師たちと自分との関係を思い起こし、振り返っておく 第2回 テキスト「プロローグ」、第一部「教師として学び成長すること」を事前に読んでおく 第3回 テキスト第一部「創造的な教師の技法(1)(2)」「教師の居方について」を事前に読んでおく 第4回 テキスト第一部「職人としての教師」「技の伝承と学び」、第二部「校長のリーダーシップ」を事前に読んでおく 第5回 テキスト第一部「専門家として育つ」「専門家として学ぶ」を事前に読んでおく 第6回 テキスト第一部「ベテラン教師の授業から学ぶもの」「教師として学び続ける①②」を事前に読んでおく 第7回 中間レポートを作成する 第8回 テキスト第二部「高校を変える校長のリーダーシップ」を事前に読んでおく 第10回 テキスト第二部「中学校の風景を一新した校長」を事前に読んでおく（60分以上）		

授業概要(シラバス)

授業科目名	児童教育課程論		
授業担当者名	中村 恵美子		
単位数	2単位	開講期（年次学期）	2年次前期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	233-1PED1-05
備考	児童発達教育専攻 実務経験のある教員担当科目		
授業のテーマ及び到達目標	学習指導要領を基準として各学校で編成される「教育課程」について、意義や編成方法を理解し、各学校・教科や領域の特色、授業者等の熟達段階等に合わせたカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解できるようになる（学習指導案の作成方法や評価、授業分析・診断方法等の理解も含む）		
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」◎、「思考力・判断力・創造力」○		
授業の概要	学習指導要領や、「次期教育振興基本計画」を基に、毎回の意見交換、振り返りシートの記載等を行う。カリキュラム・マネジメントの観点から教育課程編成の意義や方法、授業診断・分析、評価方法を理論的・実践的に検討する。 ＜実務経験と本科目との関連＞ 教諭としての経験を活かし、これまで学校で編成してきた「教育課程」について、意義や編成方法などの具体例を示した指導を行う。また、学校の特色、教科領域の特性など学習活動の構想での留意点を具体的に示す。		
学生に対する評価の方法	①授業への参画態度（20%） ②授業外課題レポート（30%） ③授業内容のまとめや振り返り及び授業内容の理解度（50%）		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法 等）	第01回 オリエンテーション（授業概要、進め方等） 第02回 資質・能力の育成と新しい教育課程 第03回 学びのデザイナーとしての教師 第04回 カリキュラムをデザインする基礎知識 第05回 教育課程の意義と位置づけ 第06回 学習指導要領の変遷と資質・能力目標の展開 第07回 学習指導要領改訂のポイント 第08回 カリキュラム・マネジメントの意義と考え方 第09回 単元指導計画のデザイン（学習活動の構想） 第10回 単元を通して育みたい資質・能力目標 第11回 学力形成と評価の3観点 第12回 クリティカルシンキングと創造性、資質・能力 第13回 真正の評価の考え方・進め方 第14回 「個人的・社会的に幸福になるWell-being」のための教育観 第15回 理解度確認とまとめ、受講結果アンケートの実施		
使用教科書	テキスト：文部科学省「小学校学習指導要領解説 総則編」 東洋館出版 参考書・参考資料等：資料は適宜配布する		
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	授業外課題レポートづくり（70分×2）実施時期については、講義にて連絡する。 グループ討議を行う場合には事前に課題を提示し、そのための調査や自分の意見を明確にまとめておくなど予習が必要（週20分以上）		

授業概要(シラバス)

授業科目名	特別支援教育論		
授業担当者名	大島 光代、伊藤 佐奈美		
単位数	2単位	開講期（年次学期）	2年次前期
教員担当形態	オムニバス（主担当：大島光代）	ナンバリングコード	233-1SED2-01
備考	児童発達教育専攻 実務経験のある教員担当科目		
授業のテーマ及び到達目標	「特別支援基礎概論」での知識をベースに学びを深める。特別支援教育の歴史や背景を踏まえ、現在の制度や理念について理解するとともに、各障害種別の教育の現状や課題、障害の特性と教育的な対応、教育課程、インクルーシブ教育システム等の基本的な知識を理解する。 1. 障害児教育の歴史と特別支援教育の制度・理念を理解する。 2. 特別支援教育の課題や教育的な対応について、事例を通して理解する。 3. 特別支援教育の障害種別の教育課程やインクルーシブ教育システムについて理解する。		
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」◎、「思考力・判断力・創造力」○		
授業の概要	特別な配慮を要する子どもは、通常の教育や保育を行う幼児教育施設にも在籍し、特別支援教育のスキルのニーズは幼児期から高くなっている。共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築を目指し、特別支援教育の基本的な考え方、制度やその対象、教育課程、支援・指導の方法は特別支援学校教員のみならず幼稚園・保育園等・小学校・中学校・高等学校・大学に至るまで教員や保育者がその知識とスキルを学ぶことが期待されている。障害に対する知識や医療・福祉との連携、合理的配慮など特別支援教育の基本について学ぶ。 ＜実務経験と本科目との関連＞ 特別支援学校教諭としての経験を活かし、特に第5回から第8回の授業において、発達障害、聴覚・視覚・運動障害、重複障害などの具体的な事例を挙げて指導に当たる。		
学生に対する評価の方法	授業態度（30%）、授業内で行うレポート（30%）、最終に実施する筆記試験（40%）などで総合的に評価する。		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法 等）	第01回 オリエンテーション、我が国の特別支援教育の歴史 第02回 特別支援教育の制度と理念 第03回 特別支援教育の学習指導要領、教育課程 第04回 障害に関する基礎的な理解①（知的障害） 第05回 障害に関する基礎的な理解②（発達障害：LD、ADHD） 第06回 障害に関する基礎的な理解③（発達障害：自閉症スペクトラム障害） 第07回 障害に関する基礎的な理解④（聴覚・視覚・運動障害） 第08回 重複障害・二次障害 第09回 福祉・医療・教育の連携と自立活動及び個別の教育支援計画 第10回 個別の指導計画 第11回 保護者支援・家族支援 第12回 合理的配慮と支援教材・教具 第13回 就学支援・地域との連携 第14回 アセスメントの方法と実際 第15回 授業のまとめ・理解度確認・授業全体の振り返り、「学生受講結果アンケート」への回答		
使用教科書	「特別支援学校 幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領」 「特別支援学校教育要領 総則編（幼稚部・小学部・中学部）」 「特別支援教育概論 花熊暁・川住隆一・苅田知則 編著（建帛社）」		
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	講義用のプリントを活用しながら復習をしたり、教科書や関連図書を読んだりして知識を深めるための学びを積極的に行いましょう。新聞やニュースで報道される関連記事にも関心をもつようにしたいものです。また、授業で配布する資料は、自己学習で積極的に活用してください。教科書は、前期に履修した「特別支援基礎概論」と同じ「特別支援教育概論」（建帛社）を使用します。引用文献を自分で探し読むなどして、学びを広げてください。時間は週60分以上を目安とします。		

授業科目名	肢体不自由者教育方法論		
授業担当者名	吉村 匡		
単位数	2単位	開講期（年次学期）	3年次後期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	233-2SED2-09
備考	児童発達教育専攻 実務経験のある教員担当科目		
授業のテーマ及び到達目標	①肢体不自由教育における教育課程に関する知識を学習指導要領に照らして理解する ②肢体不自由児童生徒の障害特性を理解し、個別的教育支援計画や個別の指導計画を作成する上での要点を把握する ③肢体不自由特別支援学校における教科指導の工夫と自立活動の実践例を通して、指導内容・方法に関する実践的な知識を習得する		
ディプロマポリシーとの関連	「思考力・判断力・創造力」◎、「協働力」○		
授業の概要	肢体不自由教育の歴史から現代の課題を俯瞰する。教育課程とそれに付随する個別的教育支援計画・個別の指導計画、自立活動の指導の実際についてワークショップ形式も取り混ぜて実践力を養う。更に摂食指導の基本と、医療的ケア、キャリア教育、特別支援学校のセンター的機能等について学修し、肢体不自由児童生徒の指導・支援全般にわたる基礎的・基本的知識・技能を習得し、指導及び支援に必要な能力や態度を育てる。 <実務経験と本科目との関連> 特別支援学校教諭としての経験を活かし、特に、肢体不自由特別支援学校における個別的教育支援計画、個別の指導計画と自立活動の実際について、具体的な事例を示しながら、その理解を図る。		
学生に対する評価の方法	授業態度とミニテストの回答・感想・質問に対して毎回5点満点で評価する。全15回で75点。レポートに25点を配当する。合計100点満点で評価する。		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）	第01回 肢体不自由教育の歴史と課題(新しい障害観：ICIDHからICFへ、特別支援教育の課題) 第02回 肢体不自由特別支援学校の教育課程(在籍児童生徒の病因・疾患、教育課程の編成とカリキュラム・マネジメント、GW「時間割作成」) 第03回 教育課程A（準ずる指導）の基本的な考え方（ICT機器の活用と内容の精選） 第04回 教育課程B（知的障害の教育課程代替）の基本的な考え方（生活単元学習、作業学習等） 第05回 教育課程C（重度・重複障害）の基本的な考え方（自立活動を主とした指導の内容） 第06回 個別的教育支援計画と個別の指導計画、校内委員会、SST 第07回 バリアフリーを考える、中途障害について(岡崎愛子さんの例)、スロープ設計ワーク、車いすでの移動と斜度チェック、学内バリアチェック 第08回 自立活動について、肢体不自由児童生徒の自立活動について、透明文字盤によるコミュニケーション 第09回 医療的ケアについて、医療的ケアの歴史、医療的ケアの具体的行為、福祉制度 第10回 肢体不自由児童生徒の摂食指導Ⅰ、摂食・嚥下のメカニズム、誤嚥について 第11回 肢体不自由児童生徒の摂食指導Ⅱ、食形態と形態加工、摂食指導の実際(実技の準備) 第12回 障害の重い児童生徒の感覚・運動遊び 第13回 支援技術(AT:Assistive Technology)の活用とAACの現状と課題 第14回 キャリア支援教育の実際と課題 第15回 特別支援学校のセンター的機能と今後の課題 「学生受講結果アンケート」への回答		
使用教科書	参考図書として以下の書籍を推薦する ①特別支援学校小学部・中学部学習指導要領、同総則編（小・中学部） ②肢体不自由教育の基本とその展開。2007、慶應義塾大学出版会 ③子どもの見方がかわるICF。2009、クリエイツかもがわ ④最新摂食コミュニケーション。2004、(株)エポックアート		
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	毎回、講義ノート(スプレッドシート)にミニテストの回答と感想・質問を記入して提出すること。講義内容に関する論文や記事を精査し自己学習として定着させること。(各回90分相当)		

授業概要(シラバス)

授業科目名	障害アセスメントの基礎		
授業担当者名	中島 卓裕		
単位数	1単位	開講期（年次学期）	3年次前期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	233-1SED2-06
備考	児童発達教育専攻 実務経験のある教員担当科目		
授業のテーマ及び到達目標	本授業では、アセスメント方法として、いくつかの基本的な発達検査・心理検査を学び、結果の見方や活用の仕方を理解するとともに、各検査の限界や問題点を理解する。アセスメントの結果をいかに本人や保護者と共有し、学校臨床の場に生かしていくかがわかるようになることが目標である。		
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」◎、「思考力・判断力・創造力」○		
授業の概要	さまざまなアセスメントの中から代表的な検査について概論を説明し、実施しながら学ぶ。実施方法を単に知るだけでなく、それぞれの検査の効果と限界を踏まえて、現場での活用を考える。自分の理解と不明点等を明確にするために、レポートの提出を求める。 <実務経験と本科目との関連> 臨床心理士としての実務経験を活かし、障害児・者のアセスメントの基礎を解説する。特に発達障害については障害種別の特性や対応・支援のあり方について事例を挙げながら理解できるようにする。		
学生に対する評価の方法	受講態度・レポート：50% 最終レポート：50%		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法 等）	第01回 オリエンテーション、アセスメントの活用と目的 第02回 発達検査概論 第03回 新版K式発達検査の評価と活用 第04回 知能検査概論 第05回 WISC-IVの実施と評価：言語理解、知覚推理 第06回 WISC-IVの実施と評価：ワーキングメモリ、処理速度 第07回 WISC-IVの活用 第08回 適応行動概論 第09回 Vineland-II 適応行動尺度の実施 第10回 Vineland-II 適応行動尺度の実践 第11回 Vineland-II 適応行動尺度の活用 第12回 パーソナリティ検査概論、質問紙法：Big Five 第13回 投影法：バウムテスト 第14回 発達障害に関するアセスメント 第15回 行動評価の方法と活用		
使用教科書	教科書は使用しない。講義内で参考文献を提示する。 参考 滝吉美知香・名古屋恒彦（2015）特別支援教育に生きる心理アセスメントの基礎知識。東洋館出版社		
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	予習：次回の授業内容について事前に調べておくこと（30分以上） 復習：学んだ内容や体験を振り返り、関連する事項を調べたり気づきを書き記したりしておくこと（30分以上）。レポート課題がある場合にはその作成に2時間程度を要する。		

授業概要(シラバス)

授業科目名	心理面接演習		
授業担当者名	中島 卓裕		
単位数	2単位	開講期（年次学期）	3年次前期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	233-1PSY1-14
備考	児童発達教育専攻 実務経験のある教員担当科目		
授業のテーマ及び到達目標	支援対象者の心理や気持ちに沿った面接や話の聴き方は、対人援助場面で必須となるスキルである。相手を理解するためには話を聴く際の自分のクセや感情を理解することも欠かせない。よって、効果的な支援の基盤を作るために必要な心理面接の基礎を習得することが本授業のテーマである。次の3点を到達目標とする。 (1) 自分の感情や考え方のクセに気づくための方法を知り、実践できる。 (2) 心理面接の基礎的な技術を習得し、実践できる。 (3) 支援のための方法を知り、説明できる。		
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」◎ 「思考力、判断力、創造力」○		
授業の概要	心理面接の基礎的な知識、理論と技法について説明し、体験演習（ロールプレイ）や実践を行う。 授業内のみで体験を終わらせないために、ほぼ毎回、授業外での体験課題を課す。さらに、体験における自分の感覚や実践から得た考察を言語化できるようになることを目指すため、毎回、体験課題に基づくレポートの提出を求める。 <実務経験と本科目との関連> 臨床心理士としての実務経験を活かし、面接時の基本やインテイク面接のポイントなどを解説する。その後事例を設定してロールプレイを繰り返し、面接時の知識・技能の向上を図る。		
学生に対する評価の方法	受講態度：20% 毎回のレポート：40% 最終レポート：40%		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）	第01回 オリエンテーション：心理面接とは何か 第02回 自分の気持ちに気づく：自分の感情を知る（フェルトセンス） 第03回 自分の気持ちに気づく：自分の感覚を知る（マインドフルネス） 第04回 自分の気持ちに気づく：自分の考え方を知る 第05回 人の話を聴く：環境設定 第06回 人の話を聴く：心理面接の開始、インテイク面接 第07回 人の話を聴く：援助的態度（さまざまな応答技法を知る） 第08回 人の話を聴く：援助的態度（心理面接の実践を視聴覚教材で学ぶ） 第09回 人の話を聴く：援助的態度（応答技法の練習） 第10回 人の話を聴く：援助的態度（応答技法の練習） 第11回 人の話を聴く：援助的態度（応答技法の実践） 第12回 非言語を聴く：箱庭体験 第13回 対応する：友達作りをどのように支援するか？ 第14回 対応する：保護者をどのように支援するか？ 第15回 対応する：ストレスマネジメント		
使用教科書	教科書は使用しない。授業内で参考文献を提示する。		
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	予習：次回の授業内容について事前に調べておくこと（30分以上） 復習：学んだ内容や体験を振り返り、関連する事項を調べたり気づきを書き記したりしておくこと（30分以上）。レポート課題がある場合にはその作成に2時間程度を要する。		

授業概要(シラバス)

授業科目名	学習心理学		
授業担当者名	赤嶺 亜紀		
単位数	2単位	開講期（年次学期）	2年次前期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	233-1PSY1-07
備考	児童発達教育専攻 実務経験のある教員担当科目		
授業のテーマ及び到達目標	学習心理学は、生体は何をどのように学ぶのか、学んだ結果どのように行動が変わるのかについて実験研究を中心に展開されてきた領域である。本講義ではこれまでの学習心理学の成果を理解し、人間の行動を科学的にとらえる視座を得ることを目指す。		
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」◎、「思考力・判断力・創造力」○		
授業の概要	はじめに動物を対象として行われた実験研究を中心に取り上げ、学習の基礎的過程を説明する。その後、ヒトのより高次の行動と認知のメカニズムについて解説する。 ＜実務経験と本科目との関連＞ 臨床心理士としての実務経験により、人間の行動の獲得・変容等のしくみを解説する。そして、心理学の知見の日常への応用、たとえば教育やメンタルヘルス領域への応用の可能性を議論する。		
学生に対する評価の方法	毎回の授業時に課すレポート（おもに講義の要約）と期末の理解度確認課題の達成度により評価する。評価の配分はおおよそ、レポート：試験＝1：2 を考えているが、受講者の課題達成度により若干変動することがありうる。		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法 等）	第01回 導入：学習心理学の特徴 第02回 初期経験 第03回 古典的条件づけ（1） 第04回 " （2） 第05回 オペラント条件づけ（1） 第06回 " （2） 第07回 技能学習 第08回 社会的学習 第09回 記憶（1）：ワーキングメモリ 第10回 記憶（2）：知識の構造 第11回 判断と意思決定 第12回 メタ認知 第13回 外部講師による講義：学習理論の臨床への応用 ※ 第14回 理解度確認課題 第15回 まとめ（理解度確認課題のフィードバック、学生受講結果アンケートの実施など） ※第13回は外部講師による授業を計画しているが、時間割配当等の都合上、日程およびテーマを変更することがあるかもしれない。		
使用教科書	指定の教科書はなし。資料（主に授業時に提示するスライド）はMoodleにアップロードする。各自でそれらのファイルをダウンロードして、ノートPCやタブレット端末で利用する。		
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	・Moodleの資料を参照し、キーワードを予習する（30分～／週）。 ・授業の内容や日常の経験をもとに自ら問いをたて、調べる。授業時に関連する書籍を紹介するが、図書館などを利用して、自ら興味のある書籍を選んで読む（60分～／週）。 ・履修にあたっての注意：授業中は写真を撮るのではなく、自らの目と耳、手をはたらかせてノートを取る（PC等を利用することはかまわない）。		

授業概要(シラバス)

授業科目名	臨床心理学		
授業担当者名	中島 卓裕		
単位数	2単位	開講期（年次学期）	2年次前期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	233-1PSY1-10
備考	児童発達教育専攻 実務経験のある教員担当科目		
授業のテーマ及び到達目標	臨床心理学は、苦しみ悩む人である支援対象者の抱える問題を理解し、軽減・解消していくための実践的学問である。臨床心理学を構成する概念やさまざまな実践アプローチ、心理社会的問題のメカニズムを理解することが本授業のテーマである。次の2点を到達目標とする。 (1) 臨床心理学の代表的な理論とそれに基づく心理アプローチの考え方を理解し、説明できる。 (2) 臨床心理学が対象とする心理社会的問題のメカニズムを理解し、説明できる。		
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」◎ 「思考力・判断力・創造力」○		
授業の概要	前半は、臨床心理学を構成する概念やさまざまな学派の考え方とそれに基づく実践アプローチについて説明する。後半は、精神疾患や心理社会的問題の臨床心理学的な理解および支援について説明する。講義を中心とするが、理解を深めるために、授業内で話し合いの時間を設けたり、レポートを課したりすることがある。 ＜実務経験と本科目との関連＞ 臨床心理士としての実務経験を活かし、子どもから大人にわたる発達過程において生じやすいメンタルヘルスの問題やリスクを解説し、支援の理論や技法について講義をする。		
学生に対する評価の方法	受講態度・レポート：50% 最終の理解度確認：50%		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法 等）	第01回 オリエンテーション、臨床心理学の歴史、基本概念 第02回 診断・見立て・アセスメント 第03回 臨床心理学のアプローチ：精神分析的アプローチ 第04回 臨床心理学のアプローチ：行動論・認知論的アプローチ 第05回 臨床心理学のアプローチ：ヒューマニスティック・アプローチ 第06回 臨床心理学のアプローチ：システミック・アプローチ 第07回 臨床心理学のアプローチ：非言語的アプローチ 第08回 気分の変化の理解と支援：うつ、躁 第09回 不安な気持ちの理解と支援：社交不安症、場面緘黙 第10回 統合失調症の理解と支援 第11回 パーソナリティ障害の理解と支援 第12回 ひきこもりの理解と支援 第13回 依存・嗜癖の理解と支援 第14回 臨床心理学の研究 第15回 全体の振り返り、理解度確認および学生受講結果アンケートの実施		
使用教科書	教科書は使用しない。講義内で参考文献を提示する。 参考 丹野義彦・石垣琢磨・毛利伊吹・佐々木淳・杉山明子 著 「臨床心理学 Clinical Psychology: Evidence-Based Approach」（有斐閣） 野島一彦・岡村達也 編「臨床心理学概論」（公認心理師の基礎と実践3）（遠見書房）		
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	予習：次の授業内容について事前に調べておく（30分以上） 復習：学んだ内容を振り返り、関連する事項や疑問点を調べておく（60分以上）		